

## 増収と省力化を可能とするブロッコリー大型花蕾生産技術

ブロッコリー大型花蕾生産技術は、栽培期間を長くして一般的な青果用の収穫サイズより花蕾を大きくして収穫する生産方法です（図1）。秋冬作産地、夏秋作産地で広く実施可能であり全国平均単収の3倍以上の増収が期待できます。一斉収穫と組み合わせることで、総労働時間が半減し、増収と省力化で労働生産性や1時間当たり所得が大幅に向上します。

### ☆ 技術の概要

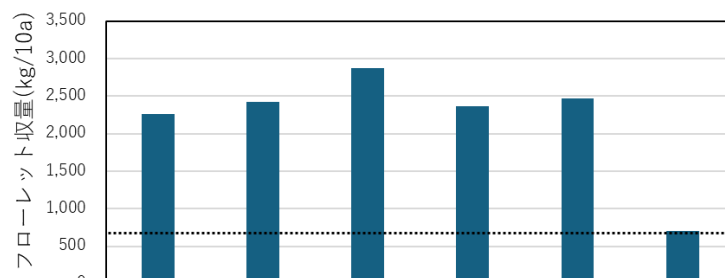
1. 神奈川、長野、兵庫、広島など関東以西7県10作型で、いずれも全国の平均単収（花蕾収量約1000kg/10a、フローレット収量推定700kg/10a）の3倍以上（花蕾収量3,000kg/10a以上、フローレット収量2,100kg/10a以上）が達成されました（図2）。
2. 各作型で高収量を記録した品種は、過去に報告されていた「グランドーム」のほかに、秋冬作期では「クリア」や「こんばんは」、夏秋作期では「SK9-099」でした。
3. 花蕾を大型化させた上で圃場内の全ての株を一斉に収穫した実証栽培では、12cm径花蕾を選択的に収穫する慣行の栽培方法と比較して、総労働時間が56%減少し、出荷量が19%増加する結果、労働時間当たりのブロッコリー生産量（労働生産性）が7.3kg/hから19.7kg/hへと169%増加し、1時間当たり所得が1,159円/hから1,689円/hへと46%増加しました。



図1

左：12cm径花蕾を収穫する慣行栽培

右：16～20cm径にする大型花蕾生産技術



試験地	神奈川県	兵庫県	広島県	長野県		全国平均 (推定値*)
作型 (収穫月)	年内どり (12月)	冬どり (1～2月)	春どり (3月)	夏どり (6月)	秋どり (10月)	
品種例	グラ ンド ーム	クリア	こんばんは	SK9-099	SK9-099	

\* 全国の花蕾収量が約1000kg/10aであり、花蕾に占めるフローレットの割合を70%として推定

図2 各試験地の作型、代表品種および収量の例

### ☆ 活用面での留意点

栽培期間の延長によって花蕾の大型化が期待できますが、気象条件によっては、秋冬作産地では寒波による白化、夏秋作産地では高温による黄化などの生理障害発生リスクが増加するため、16cm程度で収穫するとより品質が安定します。研究成果の一部は、生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」(JPJ007097)の支援を受けて得られたものです。